

発行
西郷町城北町
隠岐病院長

眼科外来から

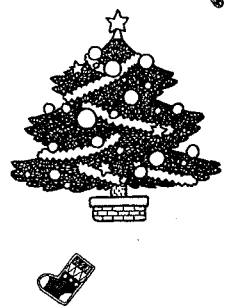
クリスマスプレゼント!



白内障手術が
できるヨ!



Merry
Christmas



隠岐病院における

本土の病院との連携

現在のところ残念ではありませんが、どんな病気でも当院で診断・治療ができるという訳にはいきません。それには、医療設備や診療材料の問題、人員の問題など、いろいろな理由があります。しかしながら隠岐の島民の皆さんが、離島に住んでいるというただそれだけの理由で、十分な医療を受けられないのは誰も望むところではありません。

当院ではできる限り島民の皆さんに、本土の病院と同等の医療（診断・治療）を提供できるように、本土の病院との連携を行えるよう努力しております。松江日赤病院と連携している頭部CTの画像転送システム、小児科では、島根医大附属病院より専門医を招いての特殊外来、整形外科では、難しい手術のために定期的に手術指導医を招いて、当院で手術を行っています。そればかりではなく、日常

診療での複雑な問題は、各科それぞれ、本土の専門医と連絡をとり、診断や治療の方針を決定することは、以前より行われていました。さらに今後は、眼科手術指導医を招き、白内障などの手術の実施、外科手術指導医を定期的に招き、さらに高度な手術を行う予定もあります。

当院では、今後も医療レベルのステップアップを目指し、できる限り本土の病院の医療と同等の医療を島内で受けることができるよう努力を続けていきます。この度、眼科における白内障手術の実施が現実のものとなりました。具体的にどんなものであるのか、眼科の瀬戸川先生に伺いました。



「白内障手術」について

この度、白内障手術を行うための器材が滞りなく完備されました。当病院においても、間もなく、白内障手術が行えるようになります。皆さんにご報告いたします。振り返りますと、本年四月「まめなか」での着任のあいさつの

中に、白内障のことを掲載してから半年以上の日々が過ぎてしまいました。少しでも早く実現させるべく奮闘していた訳ですが、何分にも私自身の力不足のため、遅くなってしまいましたことをお詫びいたします。

さて、私が眼科の医者として、皆さんに白内障手術のお話しをしますと、よく同じ様なご質問を受けることがあります。この誌面をお借りしまして、それにお答えいたしたいと思えます。



白内障手術を行う前には「術前検査」というものを受けていただきます。これには大きく分けて二つの検査がありますが、一つめは人工レンズの度数を決めるための検査です。白内障とは、人の目の中にあるレンズが白く濁ってしまいう病気です。手術を行い、その白く濁った、元々のレンズを取ってしまわなければなりません。しかし、取るだけではレンズがなくなってしまう分、手術の後に厚いメガネをかけなくてはならなくなります。

そこで、取ってしまったレンズの代わりに、人工レンズを目の中に入れてしまうのです。ですから手術の前に、皆さんそれぞれに合った人工レンズを決める必要があるのですが、それが、人工レンズの度数を決める検査だと考えて下さい。



二つめは全身検査です。白内障手術は全身に大きな負担のかかる手術ではありませんし、目だけに麻酔をかけることで手術が可能です。しかし、全身に大きな負担がかからないとはいえず、やはり手術には違いありません。できるだけ身体の調子の良いときに手術を受けていただく必要があります。そのため、全身検査を受けていただきます。

白内障手術中はベッドの上で横になっていただきます。手術がやりやすいように、時々顔を動かしていただきますが、それ以外はとにかくベッドの上で横になっていても大丈夫です。約一時間くらいで終わります。ただ、ひとくちに白内障手術と言いますが、様々な場合があります。長くかかった

り、時として早く終わったりすることもあります。手術時間が長い、短いことと手術の結果はあまり関係ありません。

手術後、十日くらいで退院していただきます。退院したからといって畑仕事や漁に行ったりというのはお勧めできません。特に重い物を担いだりするのはやめて下さい。一カ月くらいは、家でテレビとテレビを見たり、本を読んだりして、静かに過ごすことをお勧めします。事務処理など、机の上でできる仕事ならしてもかまいませんが、根をつめるのはやめておきましょう。



以上、皆さんからよく聞かれるご質問を、順を追ってまとめました。まだまだお聞きになりたいことや、ご不安な点が数多くあることと思います。そんな時はいつでも眼科外来にてお答えいたしますので、お気軽にお越しください。

眼科医師 瀬戸川 章

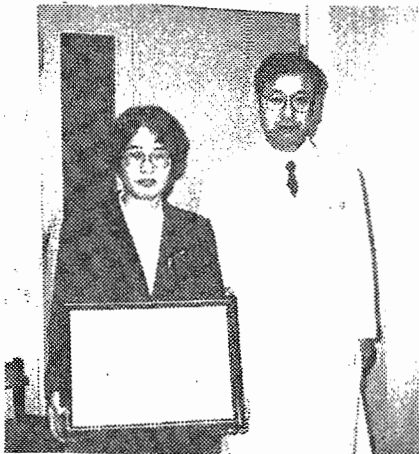
笑顔で授賞式!

十一月四日の午後、当院の院長室において、新・診察券デザイン表彰式が行われました。

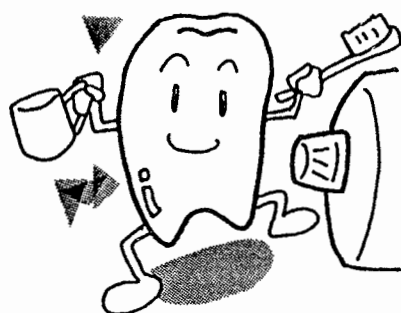
金賞受賞は、先月の「まめなかの」でもお知らせしたとおり、中村在住の大野重子さんです。

大田病院長より賞状と副賞を手渡され、「新しい診察券を早く見たいです。職場である布施小学校の子供たちと一緒に、楽しみにしています。」と笑顔で感想を述べられました。銀賞受賞の五名の方は、副賞を各自宅までお届けさせていただきます。

新・診察券は、現在受付窓口にてお渡ししています。皆さんお早めに交換し、ご覧になってみて下さい。



病院長と記念撮影!



歯医者さんからの おねがい！



歯医者さんに行く前に・・・

- その① お口の中の汚れは、歯ブラシで前もってキレイに！
- その② 口紅はふき取って！
- その③ 予約制で診察を行っています。受診される前にお電話などで予約して下さい。（急患の場合はこの限りではありません）



Dental Cafe



歯医者さんに来たら

- その① 慢性疾患・また、服用中のお薬がある時はお知らせ下さい。
- その② 月初めの受診時には保険証を提出して下さい。



受付方法が変わります！

初診

●初診（診察券のない方）は、受付カウンターに申込書と保険証を提示していただき、受付終了後、受診科と順番の明記されたカードをお渡しします。（労災・自賠・予約のない健診も同様とします）
なお、その月二回目からは●再診と同様の受付をして下さい。

再診

●再診は、診察券を自動受付機に入れると「診療科」「診察」「くすり」「リハビリ」などのランプが点灯しますので、該当ボタンを押していただくと受付終了後、受診科と順番の明記されたカードが診察券と一緒にでできます。もし、その月初めて受診されるときは、保険証の確認をいたしますので受付カウンターに提出し、各診察室の前でお待ち下さい。（この操作は毎回来られたときにさせていただきます。）

予約

●予約（診察・検査）は、その月初めて受診されるときは、保険証の確認をいたしますので受付カウンターに提出し、診察券と予約カードを受診される科の窓口へ提出してお待ち下さい。

※ドック・成人病検診などは診察室の窓口でお申し出下さい。

自動受付機で使用する新しい診察券を十一月二十日より受付カウンターでお渡ししておりますので、まだ交換されていない方は、十二月末日までに受付カウンターにお申し出下さい。（現在使用している診察券では自動受付機による受付ができません。）

自動受付機は、七時四十五分から稼働いたします。受付機の前の方の背に番号が付けてありますので時間になるまでは順番に座ってお待ち下さい。なお、トラブルの原因になりますのでご自分以外の受付はご遠慮下さい。詳しい操作方法などについては受付職員にお尋ね下さい。

大田院長

いきいき講演！

十一月二十四日、秋晴れの中「西郷町健康福祉祭」が、文化会館にて開催されました。午後の部に「いきいき長いきみんなで健康」と題して、大田宣弘病院長が、講演しました。

「QOL：クオリティ・オブ・ライフ：生命の質とか生活の質を問われる時代に、病院としても変革を求められています。隠岐病院もまた同様です。当院も隠岐病院憲章を制定し、医師主体ではなく、患者さん主体の医療サービスを提供します。」と冒頭にあいさつしました。その後、具体的に生命の質について、生活の質について、また、その質を高めるための日常生活での予防についての話などをしました。

「生命の質」とは、生命の量に対する言葉で、一昔前までは結核等の感染症の数を減らすのが医療の目的でしたが、今は臓器移植の際に問われるとおり、一個人の意思が医療に対しても尊重されるようになりました。また、「生活の質」とは、ただ生きることじゃなく、より良く生きるといふこと、

言い換えれば、したいことができるということですよ。

インフォームド・コンセント、リビング・ウィル、プライマリ・ケア、とちょっと聞きなれない言葉もあり、館内で居眠りする人も。（ちょっと内容が難しかった……）

その講演の中で、

「医療は、病気を診るものではなく、病人を診るものです。」という言葉がとても印象的でした。

これは、当院が職員一丸となって目指そうとしている医療を一番分かりやすく表現した言葉だと思いました。

講演を聴いた職員S



★年末年始の診療について

12月27日から1月4日までの間は
休診とさせていただきます。緊急に受
診を希望される方はご連絡下さい

TEL 2-1356



退職
異動

*池田 哲雄（技師長）
お疲れさまでした！

あとがき

現時点で、隠岐病院はどのような医療サービスが提供できるのか、又隠岐病院の現状等知らせる手段にと作り始めました「まめなかの」も、今号で（準備号を含めて）一周年を迎えることができました。何より素人集団でありましたので、乱文、不手際等たくさんあります。皆様の励みで、四月よりは院内広報誌から、隠岐島全戸配布と、より多くの方々に見てもらえるようになりました。

病院だけから一方的に情報を発信するのではなく、住民の皆様から病院に対するご要望等をいただき、よりよい病院づくりを目指したいと思っていますので、ひきつづき皆様方のご協力をお願いいたします。

あわただしい年末年始に事故のないよう、まめで、たっしやで、来年まで！